

私立大学における学術研究設備の現状について

調査時期

○平成17年6月1日現在

調査対象

○対象法人

502学校法人。(放送大学学園を除く全学校法人)

うち、回答した学校法人 225法人(44.8%) (大学数255大学)

○対象設備

各学校法人が保有するすべての資産のうち、1台(システムの場合は1式)の設置にかかる経費が1,000万円以上の学術研究設備。(ただし、附属病院に設置している設備は除く)

調査結果の概要

○購入金額

1千万円以上5千万円未満が80%、5千万円以上1億円未満が16%であり、1億円未満が全体の96%と1億円以上の設備を殆ど有していない。

国立大学(大規模)とほぼ同様の傾向であった。

医歯薬系学部を有する大学、医歯薬系学部を有していない大学でみても国立大学(一般・医学部あり、なし)とほぼ同様の傾向であった。

○経過年数

平成5年度以前に整備された設備が30%、平成6年度～平成10年度では28%であり、全体の58%が平成10年度以前に整備された設備であった。

国立大学(大規模)については、この割合は49%であり、私立大学(全体)の方が年数を経た設備の割合が高くなっている。

医歯薬系学部を有する大学では、国立大学（一般・医学部あり）のこの割合は67%であるのに対し、私立大学では61%であり、また、医歯薬系学部を有していない大学では、国立大学（一般・医学部なし）は78%であるのに対し、私立大学では57%と、いずれも私立大学の方が年数を経た設備の割合が低くなっている。

○分野別

全体として、理工系51%、医歯薬系20%、生物系18%、人文社会系3%、その他8%である。医歯薬系学部を有する大学では、医歯薬系42%、理工系30%、生物系21%、人文社会系2%、その他5%となっているのに対し、医歯薬系学部を有していない大学では、理工系70%、生物系15%、医歯薬系1%、人文社会系4%、その他10%であり、研究設備の導入分野にはかなりの違いがあった。

国立大学と比べると、特に違いの大きいのは国立大学（大規模）では理工系の割合が71%であるのに対し、私立大学では51%と理工系の割合が低くなっている。

医歯薬系学部を有していない大学では、国立大学（一般・医学部なし）の理工系の割合が38%であるのに対し、私立大学では70%と理工系の割合は高くなっている。

○財源別

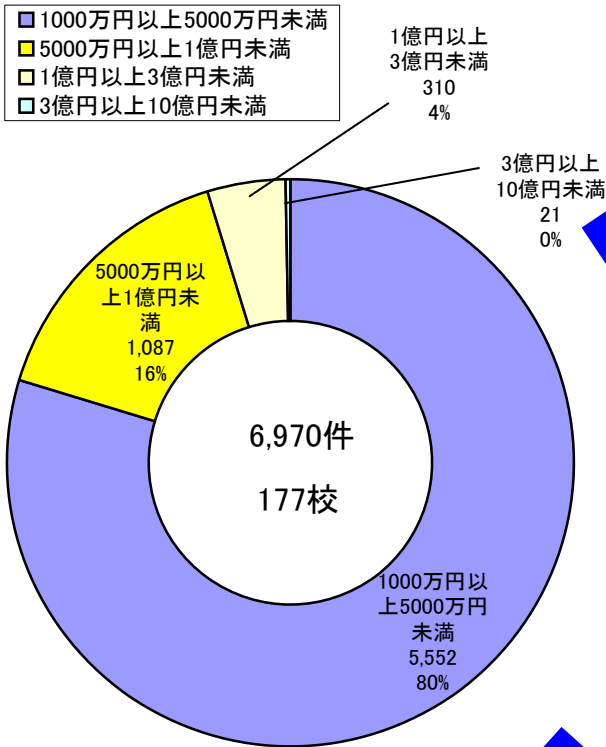
整備された設備の55%が私学助成補助金を活用しての整備であった。

特に1億円以上3億円未満は78%、3億円以上は67%と、高額になると、その割合が高くなる傾向にあった。

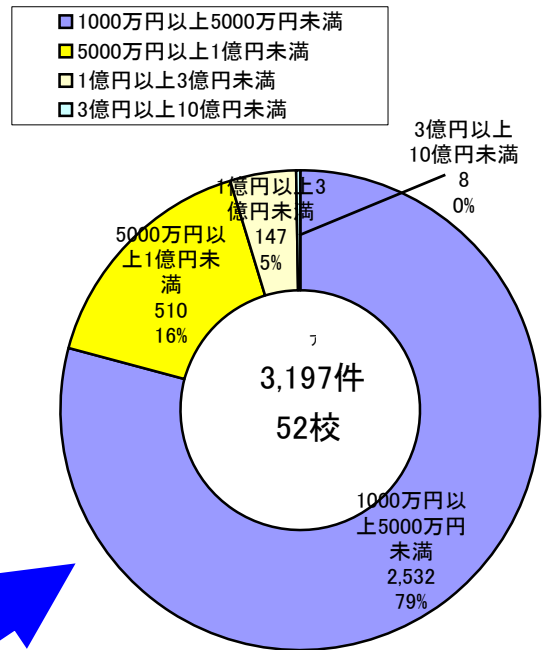
調査結果

1. 購入金額

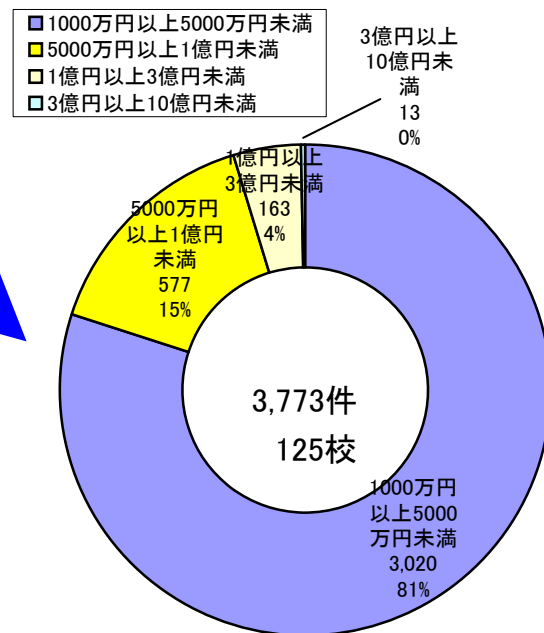
(1) 全体



(2) 医・歯・薬系学部あり

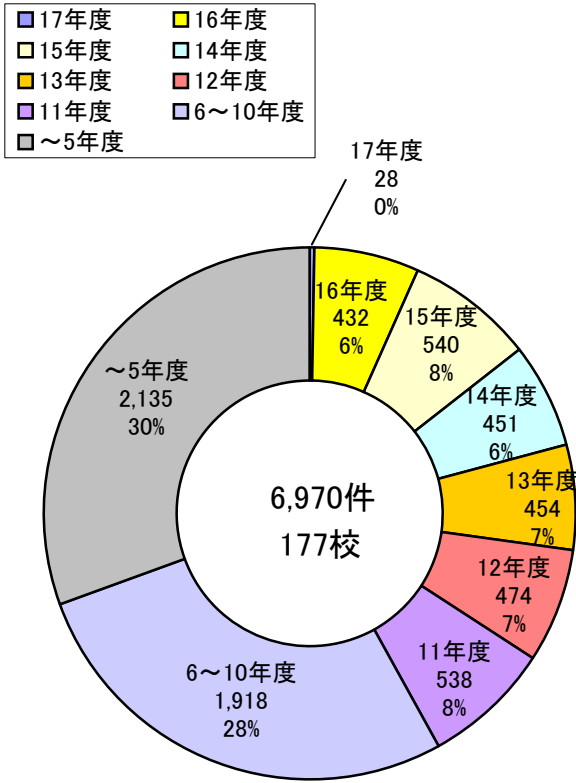


(3) 医・歯・薬系学部なし

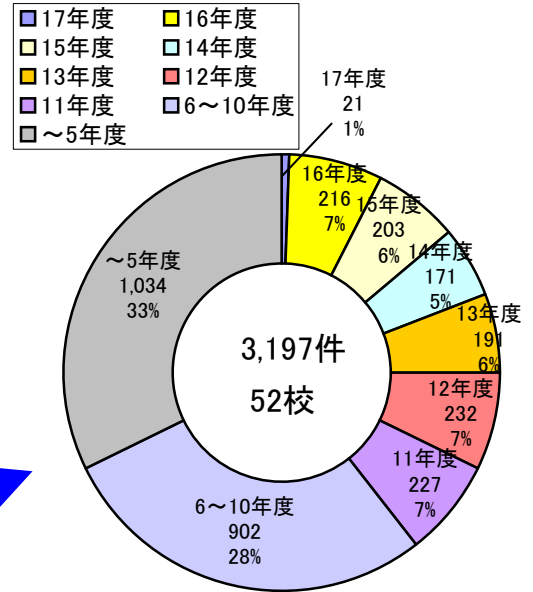


2. 経過年数

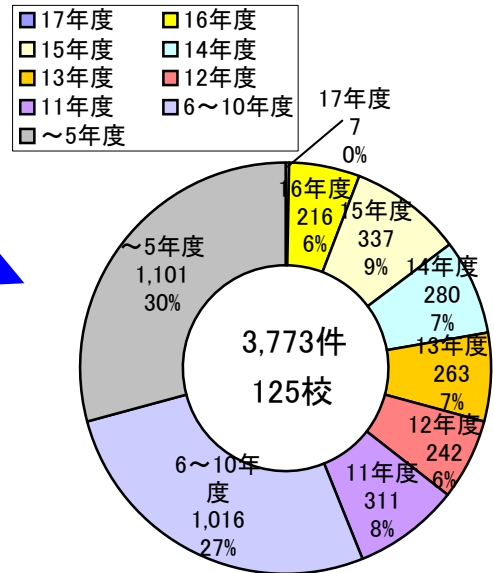
(1) 全体



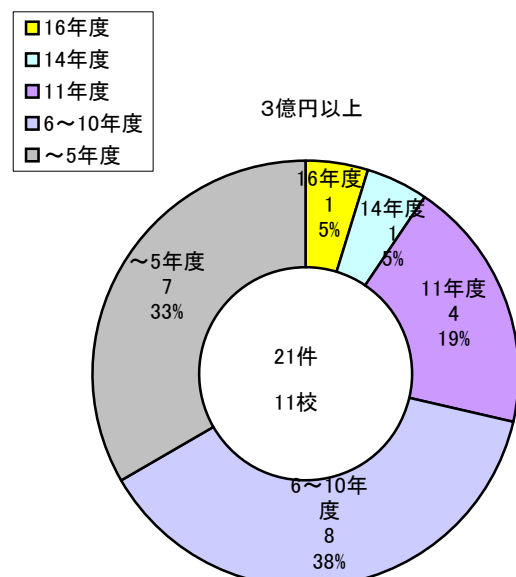
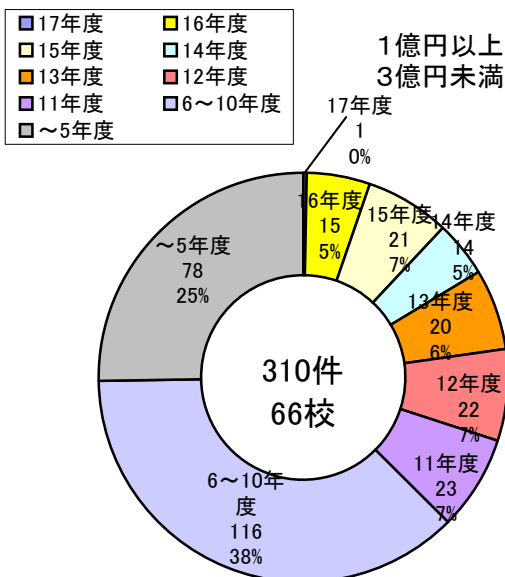
(2) 医・歯・薬系学部あり



(3) 医・歯・薬系学部なし

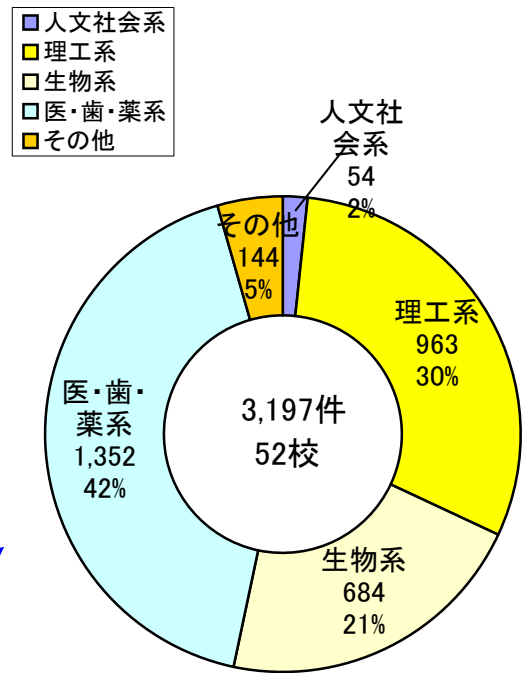


(参考) 1億円以上の設備

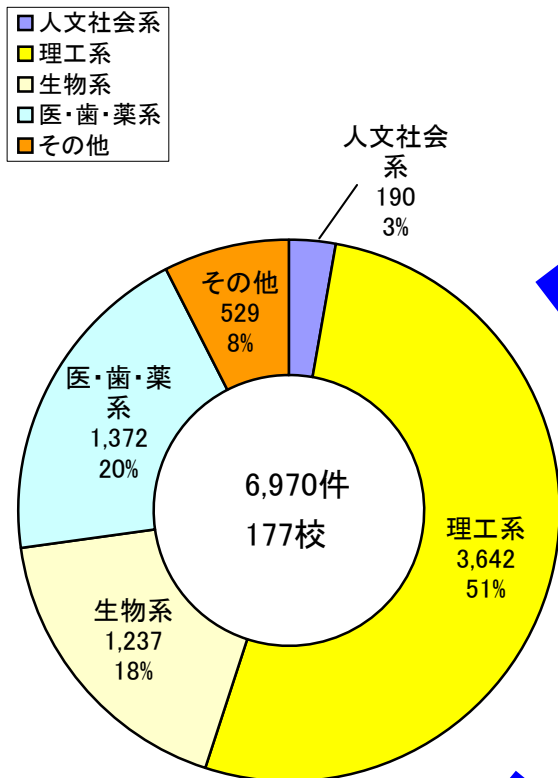


3. 分野別

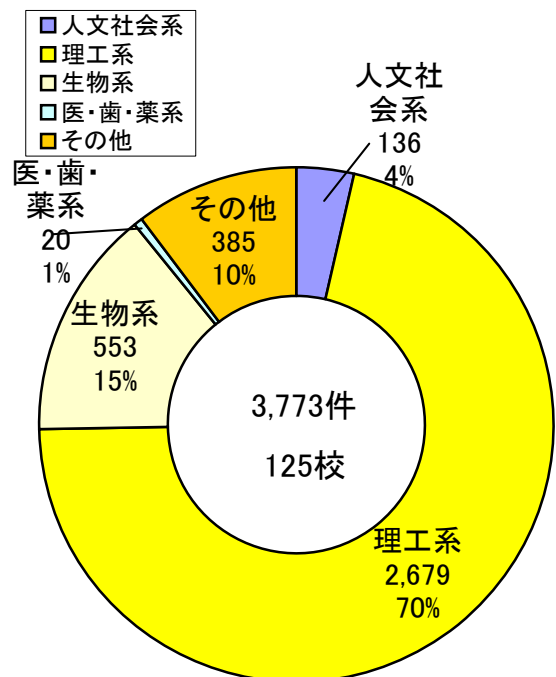
(2) 医・歯・薬系学部あり



(1) 全体



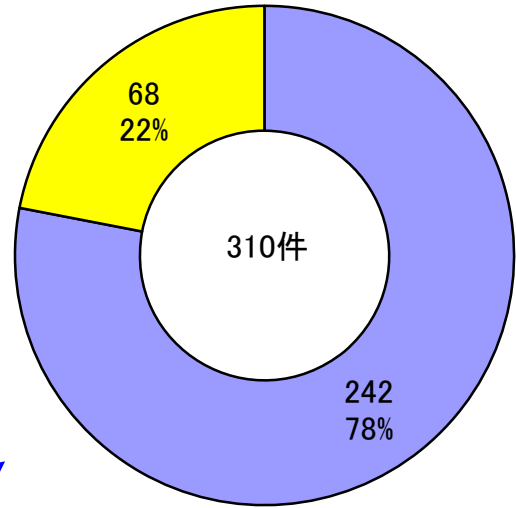
(3) 医・歯・薬系学部なし



※ 当該区分は、設備を主に使用する研究分野

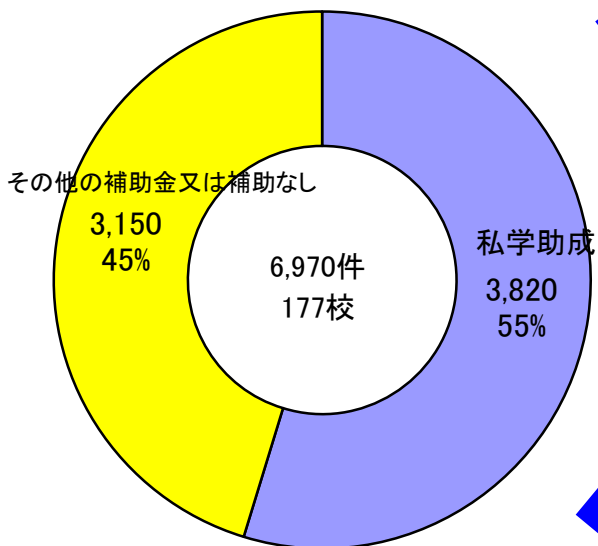
4. 財源別(私学助成の割合)

(2) 1億円以上3億円未満

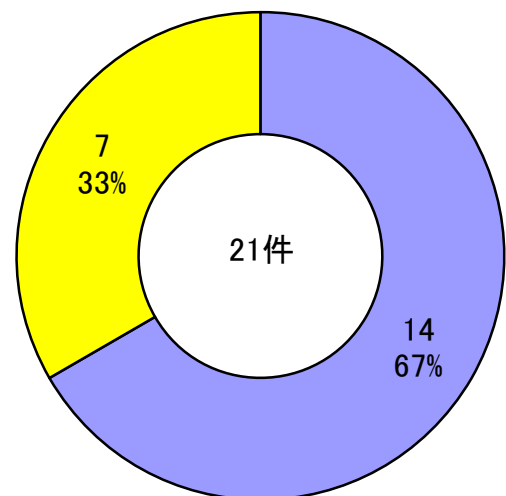


(1) 全体

■ 私立大学・大学院等教育研究装置施設整備費補助金
又は私立大学等研究設備整備費等補助金
■ その他の補助金又は補助なし



(3) 3億円以上



※ 当該区分は、私学助成を受けて設置した件数とそれ以外の経費で設置した件数